

例年であれば、8月の終わりに和歌山県、紀の川市を訪れたものでした。市内の中学生にがん教育を行うため、2012年度から毎年、続けてきました。コロナのため、2年続けて実施できなくなり、大変残念に思っています。

紀の川市は、和歌山県の北部に位置し、関西国際空港から車で40分程の風光明媚（めいび）な土地です。

紀の川の清流と豊かな自然の中で、野菜や果物の栽培が盛んです。なかでも、桃、柿、キウイ、ハッサク、ミカン、イチゴ、イチジクといったフルーツはつとに有名です。中村慎司市長の自宅で実った果物を頂くこともあります、格別のおいしさです。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

東日本大震災の直前に紀の川市でがんの市民講演会を行ったあと、青洲の診療所「春林軒」を訪れました。青洲はここで煎じ薬「通仙散」を使った世界初となる全身麻酔下の外科手術を成功させました。次回以降、紹介しますが、青洲は乳がん治療のパイオニアでもあります。

青洲の先駆的な治療に魅了

紀の川市の先駆的ながん教育

なお、果物は胃がんや食道がんのリスクを「ほぼ確実に」低下させることが分かっています。食道がんはお酒が好き

物を取るように心がけています。さて、江戸っ子の私が紀の川市とご縁を頂いたきっかけは、江戸時代の医学者「華岡

された私は、市の「健康推進アドバイザー」に就任し、中村市長に学校でのがんの授業を提案しました。そして、市内の全中学校の生徒へのがん教育が始まったのです。

今、中学校と高校の保健体育の学習指導要領にがん教育が明記され、この4月から全国の中学校で授業が始まっています。これにともなって、中学校の保健体育の教科書が改訂され、「がんができる仕組み」、「生活習慣と発がんのリスク」、「がんの予防法」、「早期発見の重要性」などを生徒は学びます。

な私にとっても気になるがんの一つです。1日に1回は果

わが国のがん教育の先駆けとなったのは間違いのないと思います。

（東京大学特任教授）